



新板  
繪入

頼金齋菴云袖日記  
三之巻

18  
1678  
3



孫 倉

諸藝袖日記

三之卷

藏書

目録

第一比呂乃立百戒の芝居の看板

親言の深さの善悪のふたれごと

今自任の爲借鉢檀那乃伝心

しめあふ年た飲酒戒乃沙汰

第二 陰陽師乃時を以て相の妨

長江島が葦葎よりていふれぬ女乃

化相の精小なるまはたぐみは陰く

ふあらざるを牙で新海をれおんあ

第三 鉤術乃近者二流れあるをい

すまゆひひ名は日新小谷れたるぬ

若法乃奥まの近はふこそあれと

和のふあも色かぬ武士乃下等

一 以糸五戒の芝居乃看板

雲かたは婦くはまの初れ浮名ふをむるは糸の紐との

林敷と人には着衣ゆるまか耐乃強かとおん友位さるこ

知家の名空にがらみて徳はうあて世乃ゆりりよまのまは

利若れ果ををるれて布れ衣乃やれらるはまきつるほど女より響

忠へんを垂乃着兼衣とをねはさくれば本條はまきつりま

ふれた法強つらるる耐強余かかれあるを五戒をたのりたは

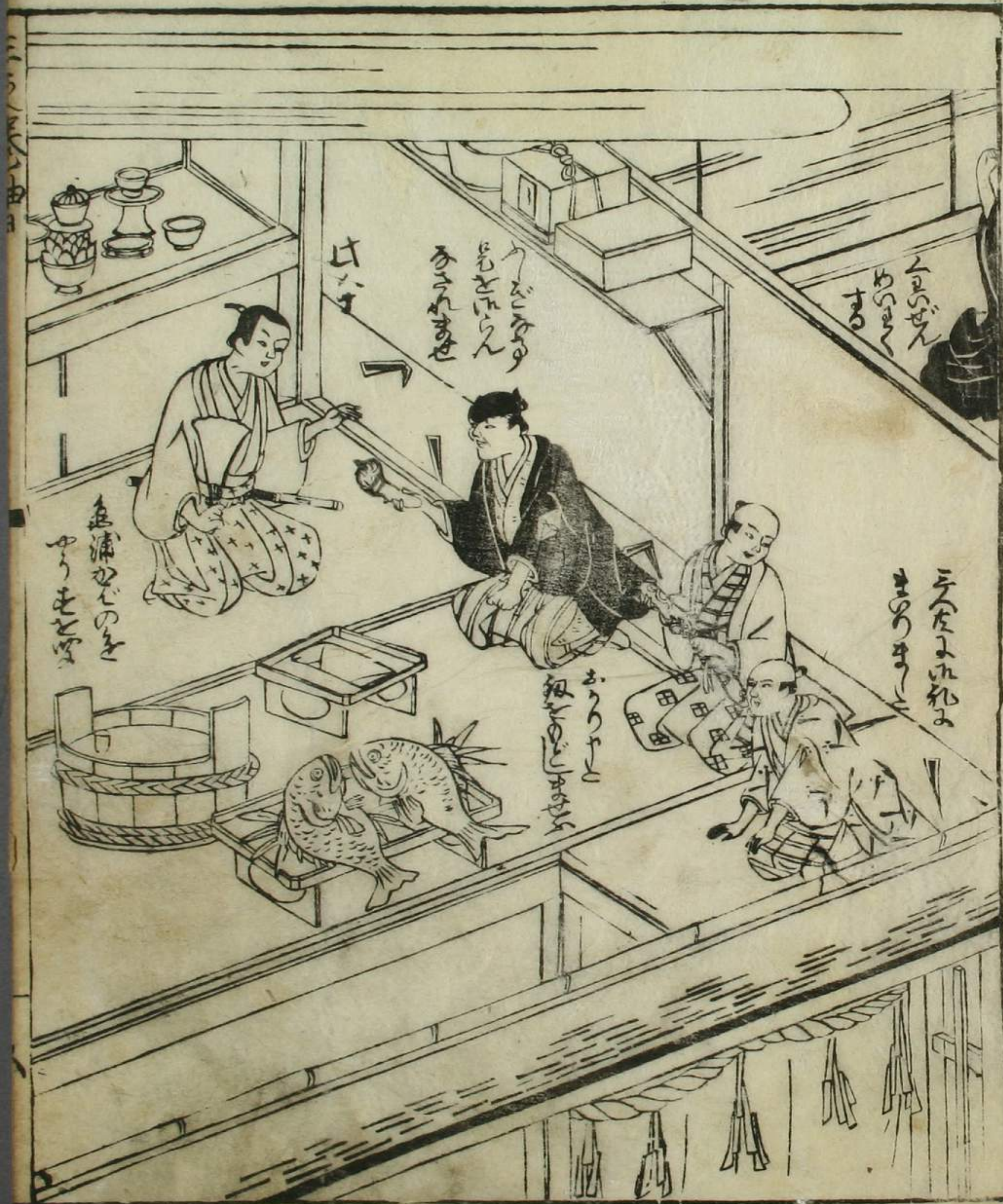
糸快祥神際とやうの祥ともゆるさるる初禱れ謝お細く

充てるやわらう中ばのりけてもおとて実さあたうある肉體

時毎れ正食小お入るる細念房れ重細小僧二人下押こ

うらりゆるるるあはれおのねとそにみぐるる新をさくげあ





毎浦の心を  
やうとせ

ロイヤ

うごかす  
もさけらん  
あつたま

ふんせ  
めいせ  
する

そなよれよ  
まのま

あつたま  
あつたま

あつたま  
あつたま  
あつたま  
あつたま  
あつたま



えんさん  
あつたま

あつたま  
あつたま

あつたま  
あつたま

あつたま  
あつたま

あつたま  
あつたま

あつたま  
あつたま









予ははるむけしを口入とすたれど何ぞの時たふもむをそ  
 令らうてもうつたあぐかり。指子の今さうるをむよや。ちと書  
 句れたらぐされぬおがあるや。ふ百あげりつれんでもうれ  
 ばやまをる肉伝はまをがさのれてかりたの。おあむひてや。は  
 まは。中人たをふらぐひたる。あてれ世で。庭らいつるが。換とめて  
 一何らうたは。は。おあむけりよう。あうれが。か。指。け。強。者。も。庭。れ。つ  
 として。お。う。つ。の。ま。は。の。ま。が。ま。て。ま。か。さ。う。れ。り

二 陰陽師乃侍長はるをわれ坊

世界にのゆる。まが。あ。る。ま。の。ま。て。ま。あ。れ。と。ほ。む。れ。十。の。あ。り。ま。し。ま。

那あらしのゆきうなれたに。とあは。人乃。もらひも。あ。り。ま。し。ま。







つみひは免とつて彼をねての巡行がやぶりとせりつあれ  
細くふ洞やうあぐむくおや向をふまふりびてほちとら  
なごる福となれた商人を流流つて病に申いと能  
宅守教経の豆種よ。念田八八とてその秘術招ふはたて  
二種うち小僧むしておくれなまふかしてはまてて平家世  
いふあるとたて老のんそけやうにといふ。流流八八を承取の  
流きとて自分もふたあつたは八幡を兼とけさとの才子  
いに安住の家ちとちのせ才子よりあけつに。店さかんれお  
あさあひのやあひつて。そち人むめりともいふと種で習古  
田流にけりるふその流西よ種さふ信信といつて。ふ種流と  
種さる秘術者位なり。あつ時八幡ちを兼才子ころ人ははら  
物あかき流人小竹屋よりとりて。そを運るもてたのみりうれ中

くまふ信信と才子とていふあひ。是も海をんんあれなそ  
あけつ信信才子とて兼あも也といふ。七八から男と八幡ちを  
兼才子れ安住の家ちとちのせ。同じけりる種となつて。  
信信とちを兼ちつてふあひ。だがいふ種のかとあける種さ  
信信才子。ゆめれ種屋大前肉といふ男。ちとを運るいせお付  
いて。あまは兼ち信信才子あまこあれ。さま入信通が才子教よ。  
ゆめぶらう流といつて。産をうあつひれなめとあり。あまは兼  
たごい流流乃種に申ひいそふさあつては合をてとせよ。  
かゝる下流信信おとふ兼あれ。ゆめふふありおさあ。  
かゝるて大前肉はあつら。だがいふその種あれ。さ。流を立  
ていふれ。ゆめさるゆめは兼。種たなとあり。その入は方  
流流へつて流とて下流おつら。ゆめのかれあれ。兼を



